

1 単元名 「スイミーへ手がみをかこう」－『スイミー』－

2 単元について

(1) 単元の概要

学習指導要領では、次のような位置づけになっている。

【第1学年及び第2学年】

1 「知識及び技能」の指導事項

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

オ 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。

2 「思考力、判断力、表現力等」の指導事項

C 読むこと(1)

エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。

カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。

本単元では、「スイミー」を読み、「スイミーへ手紙を書く」という言語活動を設定した。第1次で、学習材に出会い、内容の大筋を捉える。第2次で、スイミーの変化について捉え、どのようなところが変化したのか、なぜ変化したのか考える。第3次で、第2次で考えたことをもとにスイミーへの手紙を書く。

本単元の学習材となる「スイミー」の1つ目の特徴として、起承転結のはっきりしたわかりやすい場面の展開が挙げられる。児童を引きつける学習材であるので、絵本での読み聞かせも取り入れ学習材の世界観を楽しめるようにしていきたい。また、作品の流れがわかりやすいので、スイミーの行動も想像しやすい。特に最後の、新しい仲間と協力して大きな魚を追い出すというアイデアは、それまでの海の生き物たちとの出会いがヒントになっている。作品の始めと終わりを比べ、その違いを捉えさせたい。2つ目の特徴として、比喩表現や倒置法が効果的に使われていることが挙げられる。ひとつひとつの言葉を大切に理解することで、より場面の様子やスイミーについて豊かに想像を広げることができる。また、魅力的な挿絵もあるので活用していきたい。

上のような学習材の特徴をいかして、本単元では登場人物の言動や挿絵、様子を表す言葉から、場面の様子について想像を広げて読む力を付けたいと考えた。

児童が意欲をもって学習活動に取り組むことができるよう、友達同士で読み聞かせをし合ったり、考えたことを見合ったりと交流を大切にし、学習材を楽しめるようにしたい。

(2) 単元の観点別目標

知識及び技能：繰り返し読んだり、登場人物の気持ちを想像したりするなかで、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、自分の考えを語句を使って話や文章の中で表現している。

思考力、判断力、表現力等：場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。
文章を読んで感じたことや分かったことを友達と共有している。

学びに向かう力、人間性等：進んで登場人物の行動を想像したり、文章を読んで感じたことや分かったことを友達と共有したりしようとしている。

3 研究仮説との関連

仮説1 「目的意識」をもたせる単元構成や、習得した知識・技能を活用して課題を解決する学習活動を取り入れることで、21世紀を生き抜く力を高めることができる。

- ① 自ら読む力を高めるために、「国語のたからもの」を活用して読み方を具体的実践で指導する。単元の大まかな流れは、前期の「おおきなかぶ」や「けんかした山」等と同じようにしている。「国語のたからもの」にある「物語文」や「登場人物」など押さえ、物語文の授業での取り組み方を同じにすることで、習得した知識・技能を活用して課題解決することができると思う。

仮説2 伝え合い活動を効果的に取り入れることで、21世紀を生き抜く力を育てることができる。

- ④ 考えを広げたり深めたりできるような伝え合い活動を授業の中に設定する。
『5 本時の指導』にて

4 指導計画（全8時間扱い）

次	時	学習のねらい	児童の学習内容と評価
1	1	・学習材を知り、興味関心をもつことができる。	・「スイミー」の絵本の読み聞かせを聞く。 ・新出漢字やわかりにくい単語等を確認し、音読する。 評 関心をもって、読み聞かせを聞いたり、音読したりしている。 【態】（聞いている様子、音読の様子）
	2 3 4	・聞いている人を意識して読むことができる。 ・「スイミー」の大筋を捉えることができる。	・一人読みや二人組での読み聞かせなど何度も読む。 ・二人組で音読する場合は、互いに評価し合う。 ・「スイミー」について登場人物、時の流れ、場所などを確認する。 ・物語を関係相関図にまとめる。 ・海の生き物達の表現方法に着目し、どのような生き物達なのか確認する。 評 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 【知】（音読の様子） 評 大筋を捉えている。 【知】（ノート、ワークシート）
	⑤	・心に残ったことを書くことができる。	・誰のセリフかどの順番の文章か考えたり並び替えたりする。 ・心に残ったこと（おもしろい、不思議だなと感じたことなど）をノートに書く。 評 「スイミー」の大筋を捉えて、心に残ったことを書いている。 【思】（ノート、ワークシート）
2	⑥	・スイミーの気持ちが変わっていく様子を捉えることができる。	・スイミーの気持ちの変化をグラフにして、様々な生き物を見るうちに元気になっていったことを確認する。 評 スイミーの気持ちが変わっていく様子を捉えている。 【思】（ノート、ワークシート）
	⑦	・スイミーがどんな魚になったのか考えをもつことができる。	・スイミーの気持ちグラフを基に、どのように気持ちが変わったのか、スイミーはどんな魚になったのか考える。 評 スイミーがどんな魚になったのか考えている。 【思】（ノート、ワークシート）

3	⑧	・スイミーに手紙を書くことができる。	・これまでの学習を基に、スイミーに伝えたいことを手紙に書く。 評 スイミーに手紙を書いている。 【知・思】(手紙)
---	---	--------------------	--

5 本時の指導 (5 / 8)

(1) 目 標

- ・誰のセリフかどの順番の文章か考えたり並べ替えたりしようとする。

(2) 仮説との関連

仮説2 伝え合い活動を効果的に取り入れることで、21世紀を生き抜く力を育てることができる。

④ 考えを広げたり深めたりできるような伝え合い活動を授業の中に設定する。

音読する際は、二人組で音読を行い、聞いている相手を意識した音読をすることができるようにする。聞いていた側の児童は音読がどうだったのか感想を伝える場を設けることで意欲的に聞くことができるようにする。文章の並べ替えをする学習では、並べ替えたものを二人組で確認する伝え合い活動を通して、自信をもたせることに繋げていく。

(3) 展 開

◎は、仮説との関連

評 (評価) 手 (手立て)

学 習 内 容	授 業 の 実 際 と 考 察 実 際 の 児 童 の 様 子	時 配 ()は実際に かかった時間
1 前時までの学習を確認する。	・前時までのワークシートを見て、確認した。	3 (3)
2 本時のめあてを確認する。 文しょうのならばかえをしよう。		2 (5)
3 音読をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・二人組で音読をした。 ・聞いている人を意識した読み方ができるよう声をかけた。 ・広い海の様子が伝わってきたよ。 ・さびしそうに読めていたよ。 ◎聞いている相手を意識した音読をすることができるようにした。	12 (12)
4 文章の並べ替えをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の並べ替えをするために、内容や流れを意識して音読するよう声をかけた。 ・これまでの物語文での学習でも行ってきたが、教科書と照らし合わせて場所を確認しながら取り組むよう説明した。 ・最初はひとりぼっちだったからこれだな。 ・いろいろな出会いがあったけど順番はどうだったかな。 	10 (8)

<p>5 並べ替えたものを二人組で確認する。</p> <p>6 全体で共有する。</p>	<p>評 「スイミー」の内容や流れを捉えて、文章の並べ替えをしている。</p> <p>【思】(ノート、ワークシート)</p> <p>手 教科書や挿絵を活用して、学習内容を振り返ることで、思い出し並べ替えやすくした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短冊の並べ替えが終わったら、ページと行数を書き込むよう声をかけた。 ・並べ替えが難しい児童には、挿絵をヒントにしたり、おおまかなあらすじを再度振り返りながら取り組むようにした。 <p>・大きな魚みたいになったのは最後だからこれだね。</p> <p>・はじめにマグロに襲われたんだった。</p> <p>・二人組で並べ替えの確認をした。</p> <p>・並べ替えのワークシートを順にノートに貼っていった。</p> <p>・全体で確認しながら、ワークシートを貼っていくことが難しい様子だった。</p>	<p>3</p> <p>(2)</p> <p>13</p> <p>(15)</p>
--	---	---

(4) 板書



5 本時の指導 (6 / 8)

(1) 目標

- ・スイミーの気持ちに変化していく様子を捉えることができる。

(2) 仮説との関連

仮説2 伝え合い活動を効果的に取り入れることで、21世紀を生き抜く力を育てることができる。

- ④ 考えを広げたり深めたりできるような伝え合い活動を授業の中に設定する。
音読する際は、二人組で音読を行い、聞いている相手を意識した音読をすることができるよう

にする。聞いていた側の児童は音読がどうだったか、感想を伝える場を設けることで意欲的に聞くことができるようにする。また、全体で考えを共有する前に、ペアで考えを確かめ合う活動を取り入れる。そうすることで、自分の考えをしっかりと発表できるようになる児童もいるし、自分の考えを広げたり深めたりできるようになると考える。

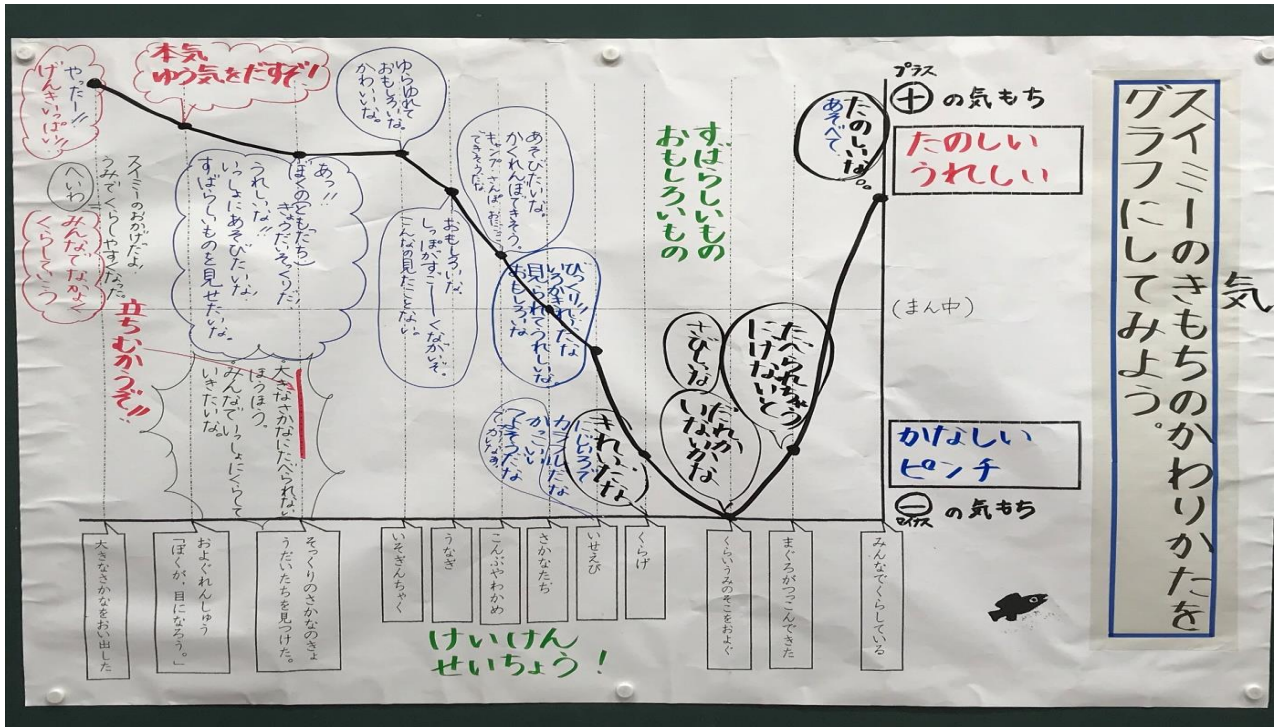
(3) 展 開

◎印は、仮説との関連
評(評価) 手(手立て)

学 習 内 容	授 業 の 実 際 と 考 察 実 際 の 児 童 の 様 子	時 配 ()は実際に かかった時間
<p>1 前時までの学習を確認する。</p> <p>2 音読をする。</p> <p>3 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>スイミーのきもちのかわりかたを、グラフにしてみよう。</p> </div> <p>4 スイミーの気持ちがどのように変化したか考えて、グラフに曲線で表す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の資料を確認しながら、心に残ったことを発表し合った。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・じっとしているとまた大きな魚に食べられちゃう。だから、いっぱい考えた、スイミーはすごい。 ・スイミーが目になったから、食べられなかったからよかった。 ・スイミーは、頭がいいな。 ・スイミーたちが大きな魚を追い出したところがおもしろい。 ・スイミーたちが、大きな魚のふりをしたところがおもしろい。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ◎二人組で音読をした。聞いている人を意識した読み方ができるように声をかけた。 ・一人で全文を音読した後、よかったところを伝え合った。前時よりもかなり時間がかかってしまった。 ・気持ちをグラフに表すときの縦軸のマイナスとプラスに、どんな言葉を入れたらよいかを考え、全体で確認した。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・初めはみんなで仲良く暮らしていたから、プラスの気持ちは、楽しいとかうれしいだよ。 ・マイナスの気持ちは、かなしいやピンチだよ。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・スイミーの気持ちがプラスとマイナスのどのあたりなのか、全体で確認しながら位置を決めていくようにした。 ・自分の考えで、ワークシートにスイミーの気持ちの変わり方を、曲線でつないでもいいことを伝えた。 	<p>2 (3)</p> <p>1 0 (20)</p> <p>1 2 (15)</p>

<p>5 吹き出しの形で、スイミーの気持ちやつぶやきを書く。</p> <p><みんなであらしているとき></p> <ul style="list-style-type: none"> ・たのしいな。 <p><まぐろがつっこんできたとき></p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんないなくなっちゃった。どうしよう。 <p><くらしいみのそこをおよいでいるとき></p> <p>こわいよ。さびしいよ。かなしい。</p> <p><出あったいきものたち></p> <ul style="list-style-type: none"> ・くらげ：きれいだな。 ・いせえび：強そうだな。 ・さかなたち：見たことないぞ。同じように動いているなあ。 ・こんぶやわかめ：迷子になりそう。かくれんぼできそう。 ・うなぎ：とっても長いな。おもしろいなあ。 ・いそぎんちゃく：ゆらゆらして気持ちよさそうだなあ。 ・だんだん楽しくなってきたぞ。 <p><そっくりのさかなのきょうだいたちを見つけたとき></p> <ul style="list-style-type: none"> ・海のおもしろいものを見せてあげたい。 <p><およぐれんしゅうをして「ぼくが、目になるう。」といったとき></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは黒いから、目になればいいんだ。 <p><大きなさかなをおい出したとき></p> <ul style="list-style-type: none"> ・やったー！うれしいな。 ・みんなで協力したからできたんだね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの場面での、スイミーの気持ちやつぶやきを想像して、吹き出しの形で書かせた。 ・これまでの学習から、スイミーがどのような気持ちか、どのような言葉をつ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで暮らして、遊ぶことができている。楽しいな。うれしいな。 ・うわ、まぐろだ。早く逃げないと食べられちゃうぞ。 ・暗い海の底はさびしいな。だれかいなかな。 ・くらげは、カラフルできれいだな。 ・いせえびはかっこいいな。 ・うなぎは、しっぽがすごく長くてももしろいな。こんなの見たことないよ。 </div> <p>ぶやいたと思うか、掲示資料や挿絵をもとに考えるように助言した。</p> <p>評 スイミーが、元気を取り戻していく心情の変化を、読み取ることができる。 【思】(ワークシート)</p> <p>手 ワークシートに書けていない児童には、考えられそうな場面から書くように助言した。</p> <p>◎学習の中で友達と考えを見合う場面を設定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の考えを聞いていいな、なるほどと思ったものを、自分の吹き出しに書き加えてもよいことを伝えた。 ・時間が足らず、友達と考えを見合うように促したが、ワークシートに自分の考えを書いている子が多かった。 <ul style="list-style-type: none"> ・スイミーが悲しみと寂しさの中から、しだいに元気を取り戻していく気持ちの変化を確認する予定だったが、時間が足らず行えなかった。次時で行うこととした。 	<p>10 (5)</p> <p>5 (2)</p> <p>5 (0)</p> <p>1 (0)</p>
<p>6 ペアになり、考えを伝え合う。</p> <p>7 全体で考えたことを共有する。</p> <p>8 次時の見通しをもつ。</p>		

(4) 板書



5 本時の指導 (7/8)

(1) 目標

- ・スイミーがどんな魚になったのか考えをもつことができる。

(2) 仮説との関連

仮説2 伝え合い活動を効果的に取り入れることで、21世紀を生き抜く力を育てることができる。

④ 考えを広げたり深めたりできるような伝え合い活動を授業の中に設定する。

音読する際は、二人組で音読を行い、聞いている相手を意識した音読をすることができるようにする。また、聞いていた側の児童は音読がどうだったのか感想を伝える場を設けることで意欲的に聞くことができるようにする。また、学習の中で友達と考えを見合う場面を設定することで、自分の考えをより広げたり深めたりできるようにする。

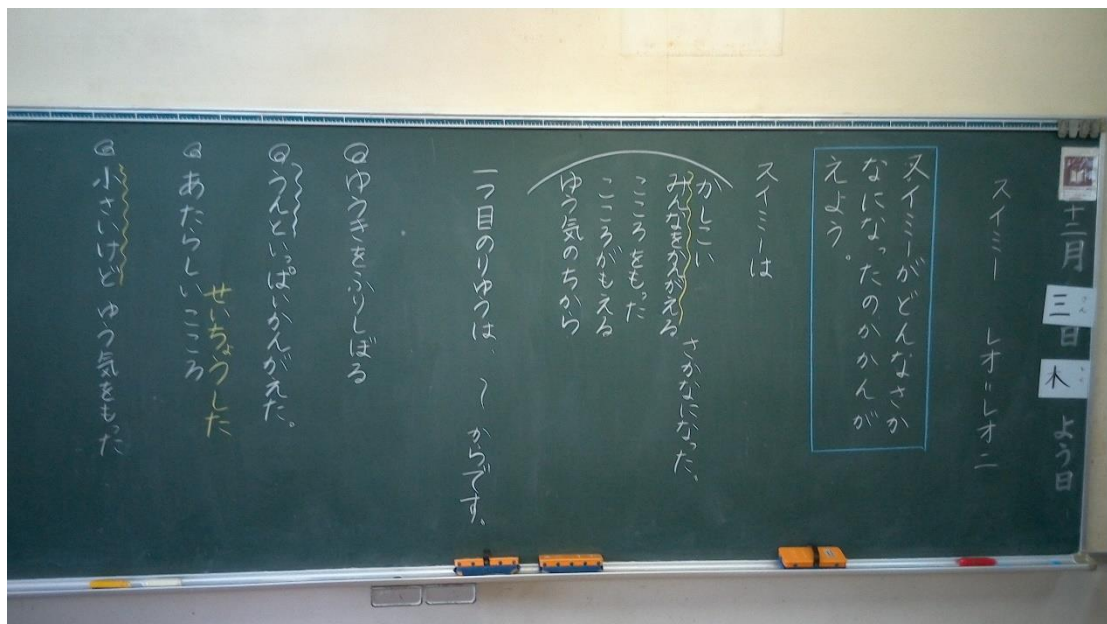
(3) 展開

◎印は、仮説との関連
評(評価) 手(手立て)

学習内容	授業の実際と考察 実際の児童の様子	時配 ()は実際に かかった時間
1 音読をする。	◎2人組で音読をする。聞いている人を意識した読み方ができるよう声をかけた。 ・このスイミーの気持ちがよく伝わってきて、上手だったよ。 ・スイミーが悲しくなるところが本当みたいでよかったよ。	6 (13)
2 前時までの学習を確認する。	・気持ちのグラフや掲示物を見て、確認した。	3 (4)

<p>3 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">スイミーはどんなさかなになったのだろう。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">スイミーはどんなさかなになったか、かんがえよう。</div> <p>○最初と最後を比べてどんな魚になったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強い魚になった。理由は、最初は寂しがってたけど、最後はまぐろを追い出すぐらいがんばっていたから。 ・勇気ある魚になった。理由は、他の兄弟達と協力してまぐろを追い出したから。 ・リーダーの魚になった。理由は、他の兄弟達に話をして、自分は目になってみんなでまぐろを追い出したから。 ・元気な魚になった。理由は、色々な海の生き物を見て、だんだん元気になったから。 <p>4 考えて書いたものを見合う。</p> <p>5 全体で考えたことを共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スイミーの気持ちの変化を確認したところで、本時のめあてにつながるようにした。 ・全体で少し考えた後、それぞれ自分の考えを書く時間をとるようにした。 ・なぜそのように考えたのか理由も書くよう声をかけた。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・賢い魚になった。理由は、海の生き物を見て、大きな魚になることを考えたから。 ・みんなのことを考える魚になった。理由は、リーダーの心を持ってみんなとがんばったから。 ・勇気のある魚になった。理由は、勇気を振り絞って大きな魚を追い出したから。 </div> <p>評 スイミーがどんな魚になったのか考えをもつことができる。</p> <p style="text-align: center;">【思】(ノート・ワークシート)</p> <p>手 ノートに書くことが難しい児童には、ワークシートを用意し、書き込むことができるようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の考えに触れ、いいな、なるほどと思ったものに印をするよう声をかけた。 <p>◎学習の中で友達と考えを見合う場面を設定した。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">いいな、なるほどと思った友達のノートにシールを貼った。(1人5枚)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・スイミーが最初と最後で変化したことを確認する。 	<p>10 (15)</p> <p>5 (9)</p> <p>10 (4)</p>
---	--	---

(4) 板書



5 本時の指導（8／8）

(1) 目 標

- ・物語の内容をふまえて、スイミーに手紙を書くことができる。

(2) 仮説との関連

仮説2 伝え合い活動を効果的に取り入れることで、21世紀を生き抜く力を育てることができる。

④ 考えを広げたり深めたりできるような伝え合い活動を授業の中に設定する。

音読する際は、2人組で音読を行い、相手を意識した音読をすることができるようにする。また、聞いていた側の児童は音読がどうだったのか感想を伝える場を設けることで意欲的に聞くことができるようにする。また、スイミーに書いた手紙を2人組で交互に読み伝える活動をする。スイミーを目の前にしたつもりで手紙を読ませ、聞き役の子はスイミーになったつもりで手紙を聞き、感じたことや嬉しかったことを伝える場面を設定することで、自分の世界観をより広げたり深めたりできるようにする。

(3) 展 開

◎印は、仮説との関連
評(評価) 手(手立て)

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点	時 配 ()は実際に かかった時間
実 際 の 児 童 の 様 子		
1 前時までの学習を確認する。	・スイミーがどんな魚になったのか、自分や友達の考えを振り返った。	2 (3)
2 音読をする。	◎聞いている相手を意識した音読をすることができるようにした。 ・2人組で交互に全文音読をした。 ・聞いている相手を意識した読み方ができるよう声をかけた。	1 4 (13)
スイミーに手がみをかこう。		
3 本時のめあてを確認する。 【考えられる手紙の内容】 ・大変だったね、つらかったね。でもすばらしいものにもたくさん出会えたね。 ・うんと考えたんだね。小さい魚が大きな魚を追い出すなんてすごいよ。 ・みんな持ち場をまもって大きな魚にみえるようにして、すごいチームワークだね。 ・まっくらな自分が最後に目になると考えたのはすごいね。 ・スイミーはきっとこの後も、何かあったらうんと考えて生きていくのだろうね。	・物語を俯瞰的にとらえさせることにより、本時のめあてにつながるようにした。 ・全体で書く内容を少し考えた後、それぞれ手紙を書く時間をとるようにした。	1 2 (15)
4 書いた手紙を読み合う。	評 物語の内容をふまえて、手紙をスイミーに書くことができる。 【知・思】 (手紙) 手 手紙をうまくかけない児童には、ノートや教科書に記入した言葉、学習掲示などを振り返らせ、これまでの学習でのスイミーの気持ちや思いなどを想起するよう促した。	8 (3)

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2人組で読み合った。 ・ スイミーを目の前にしたつもりで手紙を読むように声をかけた。 ・ 聞き役の子童はスイミーになったつもりで手紙を聞き、感じたことや嬉しかったことを伝えるようにした。 <p>◎学習の中で友達と手紙を伝え合う場面を設定した。</p>	
<p>5 全体で共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の手紙を聞いて、いいな、なるほどと思ったことを伝えさせた。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ マグロにおそわれたあと悲しかったね。さびしかったよね。でも希望をつなげて遊んでおいで。 ・ 大きな魚のふりをしてマグロを追い出したのがすごいね。頭がいいね。 ・ 心強いスイミーだね。仲間と仲良しで過ごしてね。 ・ すばらしいもの、おもしろいものを見てきてどれがお気に入りかな？ ・ 赤い魚たちに、泳ぎが速いところを見せてあげて。びっくりするかもよ。 </div>	<p>5 (11)</p>
<p>6 スイミーの学習をして、できるようになったことや感想を書く。</p> <div style="border: 1px dashed blue; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>実際の授業では取り扱わなかった。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の感想から、物語文を読む楽しさを実感させるようにした。 	<p>4 (0)</p>

(4) 板書計画

- ・ たいへんだったね。つらかったね。
- ・ すばらしいものにたくさんであえてよかったね。
- ・ すごいことをかんがえたね。
- ・ 小さなさかなで大きなさかなに見えるようにするなんて、おもいつかなかったよ。
- ・ チームワークもすごいね。
- ・ スイミーがくろくてやくにたったね。
- ・ みんなおなじいろだったら、できないことだね。
- ・ このあとながあつても、うんとかんがえそうだね。

登場人物をすべて載せた
挿絵

スイミーに手がみをかこう。

スイミー
レオレオ二

6 本単元の成果 (○) と課題 (●)

仮説1 「目的意識」をもたせる単元構成や、習得した知識・技能を活用して課題を解決する学習活動を取り入れることで、21世紀を生き抜く力を高めることができる。

- ① 自ら読む力を高めるために、「国語のたからもの」を活用して読み方を具体的実践で指導する。
- 前期の物語文学習の時から「国語のたからもの」にある「物語文」や「登場人物」などの言葉を押さえ、物語文の授業での取り組み方を同じにしたことで、児童が今何をするのか、また次の学習では何をするのか、などやることや目的をよくわかっている上で、学習を進めることができた。やることがわかっているのだから、意欲的に取り組み、「読む」ことを楽しんでいる様子の児童が多かった。
- 意欲的に取り組むことができていたので、さらに児童の「読む力」を高めるために第3次でより発展的な（自分で考えて発信するような）学習に進むこともできると考える。どのような学習があるか今後検討していきたい。

- ④ 考えを広げたり深めたりできるような伝え合い活動を授業の中に設定する。
- 2人組の音読に力を入れて学習を行った。相手に読み聞かせるように音読したことで、登場人物の気持ちが伝わってくるような読み方や情景が伝わってくるような読み方ができる児童が増えた。登場人物や情景が伝わるような読み方ができる、ということは物語をよく理解しているということになると考える。また、相手と音読を聞いてどこがよかったのかを聞いている方は伝えるようにした。相手のよいところを探すことで、その児童の音読もよいものへと引き上げられていた。
- 自分の考えを書いた後に友達のよいところを見つける活動も取り入れた。友達のよいところを見つけることは意欲的に行っていたが、見つけたよいところを自分の書いた考えに付け足したり考えを参考にしたりすることは、あまりできなかった。